

登録コード	E8360400	開講年度	2026					
授業科目	卒業研究					担当教員	茅野 公穂	
英文授業名	Graduation Study					副担当		
単位数	5	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期		対象学生	
講義室	教育研究室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー 該当								
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】		
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ							
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					数学教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					教育活動を支え、実現する上で不可欠な数学教育に関する研究遂行や論文の論理構成に必要な専門的知識・技能		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	ゼミ形式で、卒業論文に関する発表を行い、質疑応答、討議する。各自の卒業研究の遂行及び卒業論文の作成のための教材分析、文献解釈、調査方法、調査結果の分析・解釈等を、具体的な内容に即して適宜取り入れる。							
(5)授業計画	各自の興味・関心及び数学教育上の課題に基づき、各自の卒業研究のテーマを選択し、研究課題を設定する。次に、研究を進めるにあたって必要となる文献等を収集する。そして、文献解釈や教材分析等の理論的考察、さらには必要に応じて調査等の実証的考察を行うことを通じて、設定した研究課題の解決を試みる。最後に、研究の成果を卒業論文としてまとめる。もちろん、上記のプロセスは一方的に進むものではなく、振り返って検討してみたり、一応の解決が得られた後により精緻化したりと、研究の進捗状況に応じて進むものである。 なお、研究室での討議の他に、他の研究室と合同で卒業研究中間発表会（秋）を行い、より多角的な視野から研究を進められるようにする。最終回に授業アンケート実施。							
(6)成績評価の方法	各回の発表（30％）、質疑応答（20％）、及び数学教育学分野の研究に関する卒業論文の内容（50％）によって評価する。 評価割合は、若干の調整を行うことがある。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。							
(7)成績評価の基準	()大規模調査, ()研究課題と()概念枠組み, ()調査・作業, ()授業改善への示唆, のすべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表及び討議を行えば「その水準にある」。その上でいずれか一つについて発展的な発表及び討議を行えば「やや上にある」、二つについて発展的な発表及び討議を行えば「かなり上にある」、三つ以上について発展的な発表及び討議を行えば「卓越している」。							
(8)事前事後学習の内容	【事前学習】研究テーマに関連する素材・教材について、算数・数学の教科書や関連する文献を調べ、数学的な価値や数学教育的な価値について吟味すること。また、研究テーマに関連した文献等を、図書館などで検索・収集し、研究課題の設定の仕方や研究方法論に着目して要約したり、吟味したりすること。 【事後学習】質疑応答・討議を通じて生まれた課題について、事後に自分で調べて再検討すること。 事前・事後学習として、1回の授業につき少なくとも4時間、合計60時間以上を確保すること。							
(9)履修上の注意	各自、研究テーマに関連した文献等を図書館などで自主的に検索・収集すること。また、国際的な研究動向を踏まえるために、少なくとも1編は英語論文を読むことが望ましい。							
(10)質問、相談への対応及び連絡先	オフィスアワー：研究室、随時 連絡先：chinok@shinshu-u.ac.jp							
【教科書】	指定しない							
【参考文献】	参考書：日本数学教育学会（2011）．『数学教育学研究ハンドブック』．東洋館出版社．（4,725円）適宜紹介する。							